はじめに

「いくつかの句法をお経のように唱えて覚えたケド、でも、それしかわからない」という人、たくさんいると思います。それどころか、現時点で漢文の知識なんてほぼゼロだ…という人もいることでしょう。

そんな人でも大丈夫！

本講座は漢文の基本事項から講義しますので、「今から初めて漢文を勉強する」という人でも大歓迎！です。

この講座を受講すれば、最後には入試漢文の問題が自力で解けるようになっているはず。たった十回なのに、です。

なぜなら**漢文は、入試科目の中でおそらく一番少ない知識で高得点が取れる科目**だからです。ただし、古文法の知識がないと少しやっかい（漢文は中国の古典で、その文献が伝わった昔、日本語に訳して読みやすくする訓読方法を確立したからです）なので、まずは古文法を仕上げてくださいネ（入試科目で、「古文はいるけど漢文は不要」という人はいるでしょうが、その逆はほとんどの人が該当しないはずです。だから「古文そのもの」の為にはもちろんのこと、「漢文」の為にも古文法の知識は必要ですので、まずは古文文法講座の講義動画を参考にして古文法をマスターしてください）。

漢文は確かに一見、漢字だらけで変な記号がくっついていて、意味不明に思うかもしれません。

あるいは、「漢文は使役や反語などの句法が大事」だという言葉は、なんとなく聞いたことがある人も少なくないはずです。

だから「漢文なんてとりあえず句法やればいいんでしょ？」なんて思っている人もやっぱりいますよね？

でも「句法だけひとまず勉強したけど、なかなか問題が解けない…」という悩みを抱えている受験生もたくさんいるのが現実…。

――なぜでしょう？

実は**漢文で大事なことは、句法だけではありません**。もちろん句法も大事です。でも、それだけじゃないんです！

一番基本となるところ、「**文構造**」や「『**置き字**』**の知っておくべき知識**」をきちんと理解できていないと、漢文は正しく読めません。逆に言うと、これらを理解しておくだけで、簡単に解けてしまう問題だってあるくらいです。なのに「句法」ばかりが重要視され、これらをきちんと理解していないことが原因です。

本講座では、第一講で、まずそれらの基本知識をきっちり学んだ上で、第二講～第六講で入試に必要な「重要句法」に取り組みます。ほぼ全ての例文は、最近の入試問題の文章から抜粋したものです。基本を学びつつ、例文で入試問題の文章にも触れて、実践問題を取り組む準備も自然としていることになります！

第六講の最後には、覚えておくべき単語も掲載していますので、何度も見て覚えてくださいネ。少ないとは言え、やはり最低限覚えるべきことはあるので、テキストに載っていることはおさえてください（もちろんコツは講義中にお伝えします）。第七講で漢詩を扱った後は、実際の過去問にチャレンジです。

基本からしっかり理解して、実践練習で問題が解けるように、全十回一緒に頑張りましょう！

予復習・授業の受け方について

第一～七講までは予習不要です。
テキスト中に**〈例題〉**や**「問題」**がありますが、講義中に問題を指定しますので、該当問題を適宜解いてください。
その際、動画は一時停止を押して問題を解き、解き終えたらまた再生を押して、解説を聞いていく、というスタイルで。
なお解答欄はありませんので、選択式の問題は番号などに直接印をつけ、記述問題はスペースに書いてください。
ちなみに、**〈例題〉は基本オリジナル問題**（若干古い入試問題も入っています）、**「問題」は実際の最近の入試問題**です。
「既に句法が理解できている人」は、第二～六講の句法の部分は、ざっと確認程度で気楽に取り組んでください。**間違えた箇所、忘れていた部分、知らなかったことなどに重点を置いて**取り組んでください。
「全く句法が理解できていない人」は、一気に仕上げようとしなくてもよいので、**確実に覚えてから次に進んでください**。ただし、間が空きすぎると忘れてしまうので、なるべく期間を決めて（句法を一～二カ月以内に全部覚える、など）、その間に仕上げてくださいネ。

第八～十講は「実践練習」なので、**動画を見る前に先に問題を解いてください**（つまり、予習してネ）。大問で二、三題ありますので、全部解いてから動画をまとめて見るもよし、各大問ずつ解いて該当チャプターを分けて見るもよし、自分に合うスタイルで実施してください。どちらにしろ、予習が終わったら、なるべく時間をあけずに該当箇所の動画を見ることは守ってください。自分がその解答にした根拠を覚えている間に見ることが大切です。

講義を見終えたら、どの講も復習は必ずしてください。特に、第一講が理解できていなければ、その先も全く分からないはずなので、きちんと理解してから次に進みましょう。句法は言うまでもなく大切ですので、動画を見て理解ができれば何度もテキストを見直して、定着させてください。復習が終わったら、後ろにある**「復習問題」**（全て入試問題で作成）を解きましょう。
この「復習問題」を、記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してください！

目次

第一講　基本事項の確認……p. 5
第二講　再読文字／使役形……p. 24
第三講　受身形／否定形……p. 37
第四講　疑問形／反語形……p. 52
第五講　詠嘆形／比較形／仮定形／限定形／累加形……p. 62
第六講　抑揚形／願望形／その他……p. 75
第七講　漢詩／漢文読解法……p. 93
第八講　実践練習(1)……p. 108
第九講　実践練習(2)……p. 117
第十講　実践練習(3)……p. 128

第一講　基本事項の確認

一　基礎知識

●**白文**…漢字だけの文

有献不死之薬於荊王者。

●**送り仮名**…漢字の右下にカタカナでつける（漢字の横の平仮名は振り仮名）。

＊日本の古典文法に従い**歴史的仮名遣い**で書く。

有リ献ズル不死之薬ヲ荊（けい）王ニ者。

●**返り点**…漢字の左下につける「日本語の語順で読むため」の記号。

有下献二不死之薬於荊王一者上。

●**書き下し文**…漢字・仮名まじりの日本文に書き改めたもの。

不死の薬を荊王に献ずる者有り。

注　荊…楚（国名）の異名。

ⅰ 「書き下し文」

＊ 平仮名は、日本の古典文法に従い歴史的仮名遣いで書く。

① 返り点（ⅱ参照）に従って順番に読む。

② **置き字**（三参照）は**書かない**。

③ 漢字は漢字のままだが、**助詞・助動詞として読む漢字は平仮名**にする。

④ 漢字の右下の送り仮名を平仮名で書く。

⑤ **再読文字**（第二講で実施）は**最初の読みは漢字**で、**二度目の読みは平仮名**で書く。

（例）

有リ下 献ズル二 不 死 **之** 薬ヲ 於 荊（けい）王ニ一 者上。

↓

不死**の**薬を荊王に献ずる者有り。

ii「返り点」（＊　iiの例文中もiの例文同様、**助詞・助動詞**の漢字は**太字**、置き字には影を付けています）

① レ点＝すぐ下の一字からすぐ上の一字に返る。

②レ①

（例）酤（うル）レ酒（ヲ）。　〔酒を酤る。〕

② 一・二点＝二字以上返る。

③二①②一　／　④レ③二①②一　／　⑤三①④二②③一

（例）我与（ためニ）レ汝（なんぢノ）結（バン）二今身ノ縁（ヲ）一。　〔我汝の与に今身の縁を結ばん。〕

③ 上・中・下点＝一・二点をはさんで上に返る。

⑤下③二①②一④上　／　⑥レ⑤下③二①②一④上　／　⑦下①⑥中④二②③一⑤上

（例）僕時（ニ）**雖**（モ）下稍（やや）知（リ）二愛敬（スルヲ）一、**不**（ルト）中従（ヒテ）レ衆（ニ）非笑（セ）上、…　〔僕時に稍愛敬するを知り、衆に従ひて非笑せ**ざ**ると雖も、…〕

④　甲・乙点＝上・中・下点をはさんで上に返る。（甲乙丙丁…）

⑦乙⑤下③二①②一④上⑥甲　／　⑧レ⑦乙⑤下③二①②一④上⑥甲　／　⑨丙①⑧乙⑥下④二②③一⑤上⑦甲

＊　上中下点を使うべき場合も、四ヶ所以上返り点をつけなければならないときは「甲乙丙丁」を使用する。

(例)　⑨丁①⑧丙②⑦乙⑤二③④一⑥甲

⑤　組み合わせ点＝一レ、上レ、甲レのみ。　＊　一・上・甲のすぐ上にレ点をつけることはできない。

①⑤二②④一レ③　／　⑥下③二①②一⑤上レ④　／　⑧乙⑤下③二①②一④上⑦甲レ⑥

(例)　明ニスル二人**之**欺クレ王ヲ**也**。〔人**の**王を欺くを明にする**なり**。〕

⑥　二字の熟語へ返る＝―（ハイフン）でつなげる。

③二-④①②一　／　⑤三③二-④①②一

(例)　往二-来ス於市レ井せいノ間ニ一。〔市井の間に往来す。〕

〈例題一〉 次の○の中に、返り点にしたがって、読む順番を数字で書きなさい。

○乙○下○二○○レ○○中○○上○甲。

〈例題二〉 次の数字の順番に読めるように返り点を付けなさい。

⑦　⑥　①　②　⑤　③　④

問一 次の文は「臣敢て死を以て戯れと為さず」と読む。これに従って返り点を付けよ。

臣　不　敢　以　死　為　戯　。

問二 次の文は「遂に以て詩を得たる人に嫁せしむ」と読む。この読み方に従って、返り点をつけなさい。

遂　以　嫁　得　詩　人　。

問三 次の文は「勤めに服し力を致し、以て厚徳に報いんと欲す」と読む。これに従って、漢文に返り点を付けなさい。

欲　服　勤　致　力　、以　報　厚　徳　。

問四　次の文を「寛簡、擾（みだ）さざるを以て意と為す」と読めるように返り点と送り仮名とを施しなさい。

以 寛 簡 不 擾 為 意 。

注　寛簡…寛大で簡便なこと。

〈例題三〉　「移㆓榻於戸外㆒而寝」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

＊榻…長椅子兼用の細長い寝台。

①　戸外より榻を移して寝ねたり。
②　榻を戸外に移して寝ねたり。
③　戸外に寝ねて榻を移したり。
④　榻を移して戸外に於いて寝ねたり。
⑤　榻は戸外にて移して寝ねたり。

二 基本構造（＝「語順」）

① S（主語）＋V（述語）
（＊V部分は形容詞・形容動詞・名詞も置かれる）

② S＋V＋O〔目的語＝〜**ヲ**〕

③ S＋V＋於・于・乎＋C〔補語＝〜**ニ・ト・ヨリ（モ）**〕

④ S＋V＋O＋於・于・乎＋C
（＊名(1) 動(4)二 名(2)ヲ 於・于・乎 名(3)ニ一）

⑤ S＋V＋C＋O
（＊名(1) 動(4)二 名(2)ニ 名(3)ヲ一）

⑥ 修飾＋被修飾

＊ ①・⑥は日本語と語順が同じだが、②〜⑤は異なる。そこで漢文を日本語の順番で読むために「返り点」を付ける。

★ ①〜⑤において、Sが省略される時もある。**↓Vにあたる部分を探す**。

① S（主語）＋V（述語）（＊V部分は形容詞・形容動詞・名詞も置かれる）

（例）伍(ご)員(うん)亡(に)グ。（伍員は亡命した。）

汝ノ狗(いぬ)猛(たけ)シ。（お前の犬は気性が激しい。）

彼良医也(なり)。（彼は腕の良い医者である。）

② S＋V＋O〔目的語＝**～ヲ**〕

（例）病児服薬。（　　　　　　　　　　）

＊「～ヲ」の送り仮名を振って文意が通じなければ、OではなくC。

③ S＋V＋於・于・乎＋C〔補語＝**～ニ・ト・ヨリ（モ）**〕

（例）我請於帝。（　　　　　　　　　　）

＊V＝「言う」の意味になる時は、「S＋V＋C」となることが多い。

（例）公語リテレ人ニ曰ク…（公が人に語って言うことには…）

＊文意上「～ヲ」になる時は、CではなくO。強意の働き。

（例）伍(ご)員(うん)過(よぎ)ル二於荊ヲ一。（伍員は荊の国を通り過ぎる。）

注　荊…楚（国名）の異名。

④ S＋V＋O＋於・于・乎＋C

（＊ 名(1) 動(4)[二] 名(2)[ヲ] 於・于・乎 名(3)[ニ][一]）

（例）献不死之薬於荊王。（　　　　　　　　　　　　　　　　　）

⑤ S＋V＋C＋O

（＊ 名(1) 動(4)[二] 名(2)[ニ] 名(3)[ヲ][一]）

（例）子路与人一(いつ)箪(たん)[ノ]食(し)。（　　　　　　　　　　　　　　　）

注　一箪食…竹で作った器に盛った飯。

ここで再び〔例題三〕（左記）を見てみよう（選択肢①・③・④はカット）。

〔例題三〕「移[二]榻於戸外[一]而寝」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

＊榻…長椅子兼用の細長い寝台。

② 榻を戸外に移して寝ねたり。

⑤ 榻は戸外にて移して寝ねたり。

S＋｛副詞／助動詞／再読文字／前置詞を含む句｝＋V＋O＋**於・于・乎**＋C＋語気詞

※前置詞を含む句
以テ二～一ヲ　／　与二～一と　／　為二～一ニ　／　自二～一より　など

※語気詞＝文末で強意・疑問・反語・詠嘆・断定などの気分を表す言葉

（例）　臣 以二忠 信一得二罪 於 上一者 也なり。　（私は忠信でありながら「　　　　」ものである。）

書き下し文　←

「　　　　」

注　上…上位の人。

三　**置き字**…意味はあるがそれ自体は読まない文字。書き下し文では書かない。

① **於・于・乎**＝前置詞の働き。

「時・場所・比較・受身・目的・起点・対象」などを表し、動詞・形容詞の後に置く。**直後の送り仮名は**

「**ヲ・ニ・ト・ヨリ（モ）**」。

② **而**＝接続の働き。「順接・逆接」を表す。

文中…**読まない**。**直前に読む字に送り仮名**を送る。

「順接」＝テ・シテ・ニシテ・デ　（例）召シテ二蘧（きよ）伯（はく）玉（ぎよく）ヲ一而貴ブレ之ヲ。

「逆接」＝モ・ドモ・ニ　（例）蘧伯玉賢ナルモ而不レ用ヒラレ。

> **文頭**…**読む**（＝置き字ではない）。
>
> 「順接」＝しかうシテ・しかシテ
>
> 「逆接」＝しかルニ・しかルヲ・しかモ・しかレドモ

③ **矣・焉**＝**強意**の働き。**文末**にある。語気詞。

（例）我失ヘリ矣。

④ 兮＝整調の働き。（詩の中でしか使わない）

（例）今遂ニ逝ケリ兮。

問五　「語夫人其実焉」の返り点の付け方とその読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

① 語㆓夫人其実㆒焉　　夫人と其の実を語る
② 語㆓夫人㆒其実焉　　夫人に語ること其れ実ならんや
③ 語㆓夫人其実㆒焉　　夫人に其の実を語る
④ 語㆓夫人㆒其実焉　　夫人に語りて其れ実ならしむ
⑤ 語㆓夫人㆒其実焉　　夫人に語れば其れ実なり

問六　次の文章に、返り点を付けよ。

吾已作薬酒待之矣。

注　薬酒…毒薬を入れた酒。
之(これ)…ここでは「夫」のこと。

四　**返読文字**…語順に関係なく**下から返ってくる**ことが決まっている文字。（左記のＡ・Ｂなど）

Ａ「助動詞」…助動詞は文末に置く断定「也」を除いて、用言（主に動詞）の上に置かれ、その用言から返って読む。

① **不**・弗＝ず（打消）　② **使**・令・遣・教・俾＝しム（使役）

③ 為＝たリ（断定）　④ **可**＝べシ（可能・当然）

⑤ **見**・被・為・所＝る・らル（受身）　⑥ **如**・若＝ごとシ（比況）

＊「ム・タリ（完了）・リ」などは漢字がなく、送り仮名として示す。

Ｂ「それ以外」

① 有（あリ）　② 無（なシ）　③ 勿・毋・莫（なカレ）

④ 多（おほシ）　⑤ 少（すくなシ）　⑥ 易（やすシ）

⑦ 難（かたシ）　⑧ 毎（ごとニ）　⑨ 所（ところ）

⑩ 為（ノためニ）　⑪ 所以（ゆゑん）　⑫ 不レ能（あたハず）

⑬ 雖（トいへどモ）　⑭ 自・由・従（より）

⑮ 与（と）　⑯ 与（よリ（ハ））

問七　次の文は「佃人をして麦を献ぜしむ」と読む。これに従って、返り点と送り仮名を書きなさい。

使 佃 人 献 麦 。

注　佃人…公田の耕作を司る役人。

問八　次の文に訓点（送り仮名と返り点）を施し、記せ。

雪 珠 如 豆 打 茅 茨 。

注　雪珠（せつじゅ）…あられ、みぞれ。
茅茨（ぼうし）…かやぶきの屋根。

五　「也」の読み方

文末＝上に**疑問・反語**を表す副詞があるかないかを確認。

①　**疑問・反語**～也。＝「**や**」「**か**」と読んで「**疑問・反語**」の意味を表す。

②　~~疑問・反語~~～也。＝「**なり**」と読んで「**断定**」の意味を表す。

文中＝「**や**」と読んで「提示・強調」の意味を表す。

③　～也、～　（読まないときもある）

④　～也～　（ほとんど読まない）

〔例題四〕 次の傍線部ａ・ｂの読みを、それぞれ記せ。

蓋(けだ)シ是(こ)ノ国<u>也</u>(a)、地険ニシテ而民多クレ知、其ノ主ハ俗主<u>也</u>(b)。

ａ＝

ｂ＝

問九 「始貨二爾魚一約二三十銭一也。」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　始め爾(なんぢ)に魚を貨(う)るも三十銭に約せんや。

イ　始め爾の魚を貨るに三十銭を約せんや。

ウ　始め爾に魚を貨るに三十銭を約するなり。

エ　始め爾に魚を貨らしむるに三十銭を約するか。

オ　始め爾の魚を貨らしむるも三十銭に約するなり。

復習問題　第一講　基本事項の確認

① 「臣聞邪不干正」を、「臣　邪は正を干(をか)さずと聞く」と読むには、どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　臣聞㆓邪不㆒干㆑正

イ　臣聞㆑邪㆑不㆑干㆑正

ウ　臣聞㆔邪不㆓干正㆒

エ　臣聞㆓邪不㆒㆑干㆑正

オ　臣聞㆓邪不㆑干正㆒

② 「太常使国工視之」は、「太常　国工をして之を視(み)しむ」と読む。どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　太常使㆓国工㆒視㆑之

イ　太常使㆔国工㆓視㆒㆑之

ウ　太常使㆔国工㆓視之㆒

エ　太常使㆓国工視㆒㆑之

オ　太常使㆓国工視㆑之㆒

③　「移二榻於戸外一而寝」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

＊榻…長椅子兼用の細長い寝台。

ア　戸外より榻を移して寝ねたり。
イ　榻を戸外に移して寝ねたり。
ウ　戸外に寝ねて榻を移したり。
エ　榻を移して戸外に於いて寝ねたり。
オ　榻は戸外にて移して寝ねたり。

④　「語夫人其実焉」の返り点の付け方とその読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　語二夫人其実一焉　　夫人と其の実を語る
イ　語二夫人一其実焉　　夫人に語ること其れ実ならんや
ウ　語二夫人其実一焉　　夫人に其の実を語る
エ　語二夫人一其実焉　　夫人に語りて其れ実ならしむ
オ　語二夫人一其実焉　　夫人に語れば其れ実なり

⑤「且今之黍稷也、非レ有下異二於向之黍稷一者上也。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　且（か）つ今の黍稷や、向（さき）の黍稷に異なる者有るに非ざるなり。

イ　且つ今の黍稷や、向には之（これ）の黍稷に異とする者有るに非ずや。

ウ　且つ今の之（これ）黍稷なり、向の黍稷に異なる者有るに非ずや。

エ　且つ今は之が黍稷なり、向の之の黍稷に異なる者有るに非ざるなり。

オ　且つ今は之黍稷ならんや、向は之黍稷なるに異なる者有るに非ずや。

模範解答

【第一講】

二
②（病気の子が薬を飲む。）
③（私は帝にお願いする。）
④（不死の薬を荊王に献上する。）
⑤（子路は人に竹で作った器に盛った飯を与えた。）
（例）〔臣（は）忠信を以て罪を上に得る者なり。〕
（私は忠信でありながら罪を上位の人に得るものである。）

〔模範解答〕

〔例題一〕 ⑩㆚⑧㆘④㆓①③㆑②⑦㆗⑤⑥㆖⑨㆙。

〔例題二〕 ⑦㆑⑥㆔①②⑤㆓③④㆒

〔例題三〕 ②

〔例題四〕 a　や　　b　なり

問一　臣不㆓敢以㆑死為㆒㆑戯。

問二　遂以嫁㆓得㆑詩人㆒。

問三　欲㆔服㆑勤致㆑力、以報㆓厚徳㆒。

問四　以(テ)㆓寛簡㆒不(ルヲ)㆑擾(サ)為(ス)㆑意(ト)。

問五　③

問六　吾已作㆓薬酒㆒待㆑之矣。

問七　使(ム)㆓旬人(ヲシテ)献(ゼ)㆒㆑麦(ヲ)。

問八　雪珠如(ク)㆑豆(ノ)打(ツ)㆓茅茨(ヲ)㆒。

問九　ウ

復習問題解答解説

復習問題解答　第一講　基本事項の確認

〔解説〕

①・②に関しては、返り点のついている順番で読んでいった場合、読み方が同じになるものを選ぶしかない。

③ 講義中に出題した問題。返り点どおりに読むと、選択肢イかオに絞れる。「移」が「移す」と訳しており動詞であることから、その下の「榻**於**戸外」は「榻」が**目的語**（〜ヲ）、戸外が**補語**（〜ニ・ト・ヨリ・ヨリモ）になる。よって、それぞれの送り仮名がきちんと対応しているイが正解。

④ こちらも講義中に出題した問題。「語」が動詞なので、その下の「夫人其実」は「夫人」が**補語**、「其実」が**目的語**。よって、正解はウ。

⑤ 「也」の読み方の問題。**文中**の「也」は「**や**」と読むので、ウとエは削る。**文末**の「也」は、**上**に**疑問・反語**の文字が**ない**ので、この場合は「**なり**」である。よって、正解はア。

〔解答〕

① エ　② エ　③ イ　④ ウ　⑤ ア